



秋のおもちゃ祭りを行いました！

11月28日（金）に1年生が、潮見小学校近隣の幼稚園、保育園児を招いて、「秋のおもちゃ祭り」を開きました。

1年生は、生活科で、松ぼっくりやどんぐりなど秋にとれるものを活用して、けん玉や的あてゲームといったおもちゃを作りました。クリスマスイメージした置物を作っている子もいました。自然のものを使うことで、どんな工夫をすればよいかを考えながら、創作することができました。「作る楽しさ」を子どもたちは味わったことでしょう。しかし、「秋のおもちゃ祭り」は、ただ、ものを作るということだけでは終わりません。「園児たちと一緒に遊ぶ」ことを目的としていますので、相手の思いも想像する必要があります。自分の作りたいものだけを作ればよいというわけではないのです。



小学校では、1年生が一番年下ですから、上学年から「何かをしてもらう」場面が圧倒的に多く見られます。しかし、「秋のおもちゃ祭り」では、自分よりも年下の子どもたちを相手にしますから、



「何かをしてあげる」立場になります。来年度のことを考えると、一緒に遊んだ子が1年生として入学する可能性が大きいですから、潮見小学校のイメージをつくる大きな役割を担っています。そのことを1年生なりに理解しながら、園児のために考えたことを精一杯行っている姿に、成長を感じました。もちろん、自分たちも十分楽しんでいました。

12月の生活目標

12月の生活目標は、「学校をきれいにして2025年をしめくくろう」です。先月末に縦割り班での清掃活動の分担が変わりましたので、新しい場所で掃除を一生懸命頑張ろうという思いも込めています。清掃については、文部科学省から出されている「学校環境衛生管理マニュアル H30 改訂版」の中に「児童生徒等により日常的に行われるものであるが、定期的には大掃除を行い、日常できない部分まで清掃を行う」と記されています。基本的には、子どもたちが中心となって清掃を行うのですが、清掃そのものを外部に任してはどうかという動きも、コロナ禍のときにはあり、実際トイレの掃除を保護者の方にさせていただいたり、業者に依頼したりした記憶があります。



大人になっても掃除をしますから、子どもたちが掃除の仕方を学ぶことも大事だと思います。環境美化という視点だけでなく、愛校心や感謝の気持ち、奉仕の精神といったことも醸成されることも期待しています。